

巻 頭 言

副支部長 高橋尚人（札幌市立大学 AIT センター）

今年度の支部研究発表会は、昨年度に続いてオンライン開催となりました。支部研究発表会を現地開催とするか、それともオンライン開催とするのか、支部理事会でも時間をかけて話し合いました。会場の手配や皆様へのアナウンス等の都合上、2022年3月24日の理事会でオンライン開催することと決定しました。振り返りますと、「まん延防止等重点措置」は2022年3月21日をもって終了したのですが、同日の北海道での新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」と略す）の日陽性者数は1,009人でした。2022年2月10日の北海道の日陽性者数4,097人と比べると大幅に減ったものの、日陽性者数が千人を超える日が続く状況でした。支部研究発表会が開催される5月頃のコロナの状況は全く予想できない中での決定でした。2022年には、対面で開催される学術集会や展示会なども見られるようになりましたが、運営に携わる方々は、開催方法の決定、コロナの流行状況に応じた運営方法の変更など様々なシチュエーションを想定し、模索しながら取り組まれていることと思います。

さて、コロナの流行により、私たちの生活様式や働き方は大きく変化しました。働き方では、従来のような対面で打合せ等を行うことが困難になったことから、リモート会議などができるコミュニケーションツールの利用機会が大幅に増えました。令和3年版情報通信白書によると、マイクロソフト社が提供する Microsoft Teams の日次ユーザ数は、2020年3月11日から1週間で1,200万人増加したそうです。また、Zoom ビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービス Zoom についても、2020年4月3日からの19日間で1億人のアクティブユーザの増加があったそうです。リモート会議は、会議の日程調整が容易になり、移動時間が不要になるなど仕事の効率が良くなる面がある一方、ディスカッションを伴う打ち合わせでは、参加者の表情・感情を読み取りにくかったり、会話の間を取るのが難しくなりました。リモート会議の頻度が多くなり、リモートでのディスカッションに慣れてきた気もしますが、依然としてもどかしく感じる場面もあります。研究発表会では、現地参加する日程の確保ができないが、リモートでの聴講・発表が可能な場合があるなど、オンライン開催にすることで参加しやすくなる方もいらっしゃる一方、聴講者の反応を読み取りながらの発表や質疑応答、セッション後にいただくアドバイスなど、対面開催の方が優れていると考えられる面もあります。

今後、コロナの状況がどう推移していくのか予想がつかませんが、対面での打ち合わせや大人数で集まることが気兼ねなくできるようになり、オンラインの良さ、対面の良さ、両方の長所を活かす働き方が当たり前のようにできる日が来ることを切に願っています。